

第一部 基調提案

「社会の形成者として主体的に判断し行動する力を育てる社会科学習」

今日の社会と社会科教育

今日の社会は、科学技術の進歩が目覚しく、コンピュータや携帯電話を用いたインターネットの普及など高度情報化が進展している。また、社会や経済のグローバル化が進み、ビジネスやスポーツ、芸術等の分野においては海外で活躍する日本人も多く見られる一方、異なる文化・文明の中での共生や政治や経済における持続可能な発展に向けての国際協力が求められている。こうした社会や経済のグローバル化の中で、人材育成面での国際競争も加速しており、科学技術教育や外国語教育など、学校教育においても取り組むべき課題となっている。また、さまざまな分野における規制緩和と地方分権化への流れ、裁判員制度の導入など、社会のシステムが大きく変わろうとしており、それらへの対応も新たな課題と言えよう。一方で、このように変化の激しい社会の只中には、環境問題や少子高齢化の問題、人権に関わる問題、少年犯罪の増加など、依然として取り組むべき課題も少なくない。将来の社会を担う生徒には、これらの課題に対応でき、より良い社会の形成に向け、主体性をもって社会に積極的に参加し課題を解決し、また新しいものを創り出していくことができる力を身につけさせることが必要と考える。

平成18年2月に示された中央教育審議会の「審議経過報告」においては、国際社会に生きる日本人としての自覚を育てることを目標に、具体的な教育内容の改善の方向の一つとして「国家・社会の形成者としての資質の育成」を図ることが示された。ここでは、民主主義国家の一員として、あるいは家庭、地域や学校の一員として主体的・文化的な生活を送るとともに、職業生活についての前向きな見通しをもち、社会や国家、さらには国際社会を理解し、そこに積極的に参加し貢献していく意欲を育てることが求められている。

千葉県では「わかる授業、楽しい教室、夢広がる学校」づくりを目標に学校教育の改善を推進しているが、平成18年度千葉県学校教育の課題「21世紀を

拓く」においても、社会科教育の課題としての「社会的なものの見方や考え方をもって主体的に生きていく力」を育成することを目標に、①学習意欲を喚起する授業の工夫 ②一人一人を生かす指導方法の工夫 ③個に応じた評価の工夫等が求められている。

主題のめざすところ

本研究では、社会科における「確かな学力」を学習指導要領において示された社会科の目標である「公民的資質の基礎」を養うということであると考えられる。変化が激しい今日の社会においては、社会的な事象の実態や背景を理解し、自らの問題としてとらえ、さまざまな角度から考察し、社会に関わりをもち、公正な判断のもとに行動していくことのできる人間が求められる。そのような中において、学び方を学ぶ学習や社会の変化に主体的に対応していく力を身につける学習、すなわち社会の形成者としての自覚をもって主体的に判断し行動する力を育成する学習を構築することこそが、それらの期待に応えるものであると考える。

主題の意味するところ

「社会の形成者」

社会の形成者とは、単に社会的な存在であるだけでなく、よりよい社会をつくり上げようとする意識をもった存在としての人間を意味している。

「主体的に判断し」

主体的に判断するとは、学習課題を自らのものとしてとらえ、調べ方や学び方、社会的なものの見方や考え方を身につけた上で、自ら考え判断する力を有する状態を意味している。

「行動する」

行動するとは、学習課題の解決を通して得た力をもとに、実社会の問題にも発展的に目を向け、これ

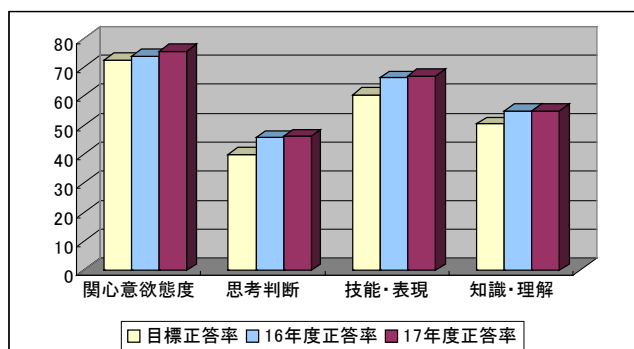
をさまざまな角度から考察し、よりよい社会を築こうとする意思をもち行動するということを意味している。

本研究では、生徒の学習活動を通して、社会的なものの見方や考え方を育て、自ら学び自ら考え判断する力を身につけさせ、より良い社会を築こうという意思や行動力を育成することが、社会の形成者を育てるとの考えにたち、それぞれの学習過程において、身につけるべき力とこれを身につけるための学習方法について明らかにしていきたい。

生徒の姿

昨今、「PISA ショック」という言葉が話題になっている。PISA (Programme for International Student Assessment) とは、OECD (経済協力開発機構) が実施した調査で、日本では「学習到達度調査」と訳されている。2000年の調査 (32カ国参加) で、日本は読解力が8位、数学が1位、科学が2位であった。2003年調査結果 (41カ国参加) において、日本は力が14位、数学が6位、科学が2位と数値の上では順位が後退し、わが国の学力低下論議に拍車をかけることとなった。

千葉市では各教科の基礎・基本の定着状況を把握し、指導上の課題を明らかにし、今後の学校における指導の改善に資することを目的に、平成16年度から中学2年生を対象とした全市一斉の学力調査 (千葉県標準学力検査による調査) を行っている。

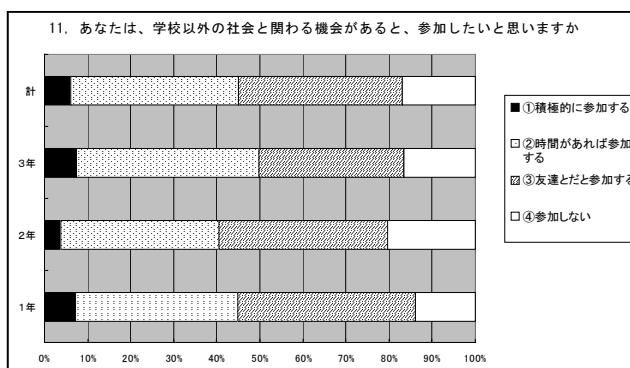
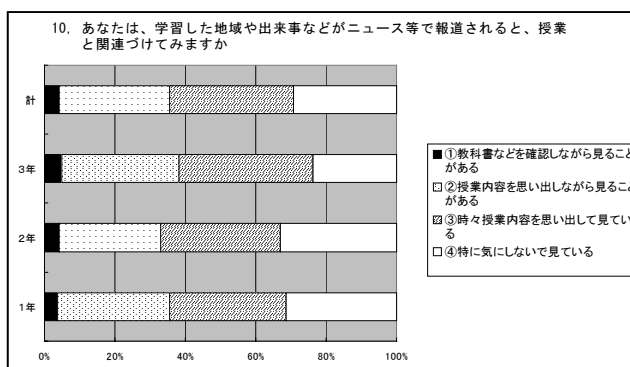
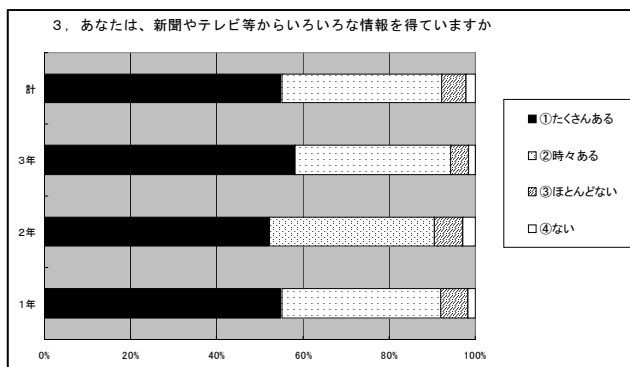


これによると、各観点とも目標正答率を上回っており、社会科に対する関心が高く、調査に積極的に応じているものの、学習で得た知識をもとに、これを活用し考えたり判断したりする思考・判断力の正答率が低いことが明らかになった。

また、本研究を進めるにあたって同じく千葉市内の中学1年～3年生33校3,026名を対象に実態調査

を実施したところ、別紙 (82頁参照) のような結果を得た。

ここでも、生徒はさまざまな情報に接する機会を得ながらも、授業で学習している内容と関連付けて考えたり、実社会との関わりをもとうとする意識は薄いという傾向がうかがわれる。

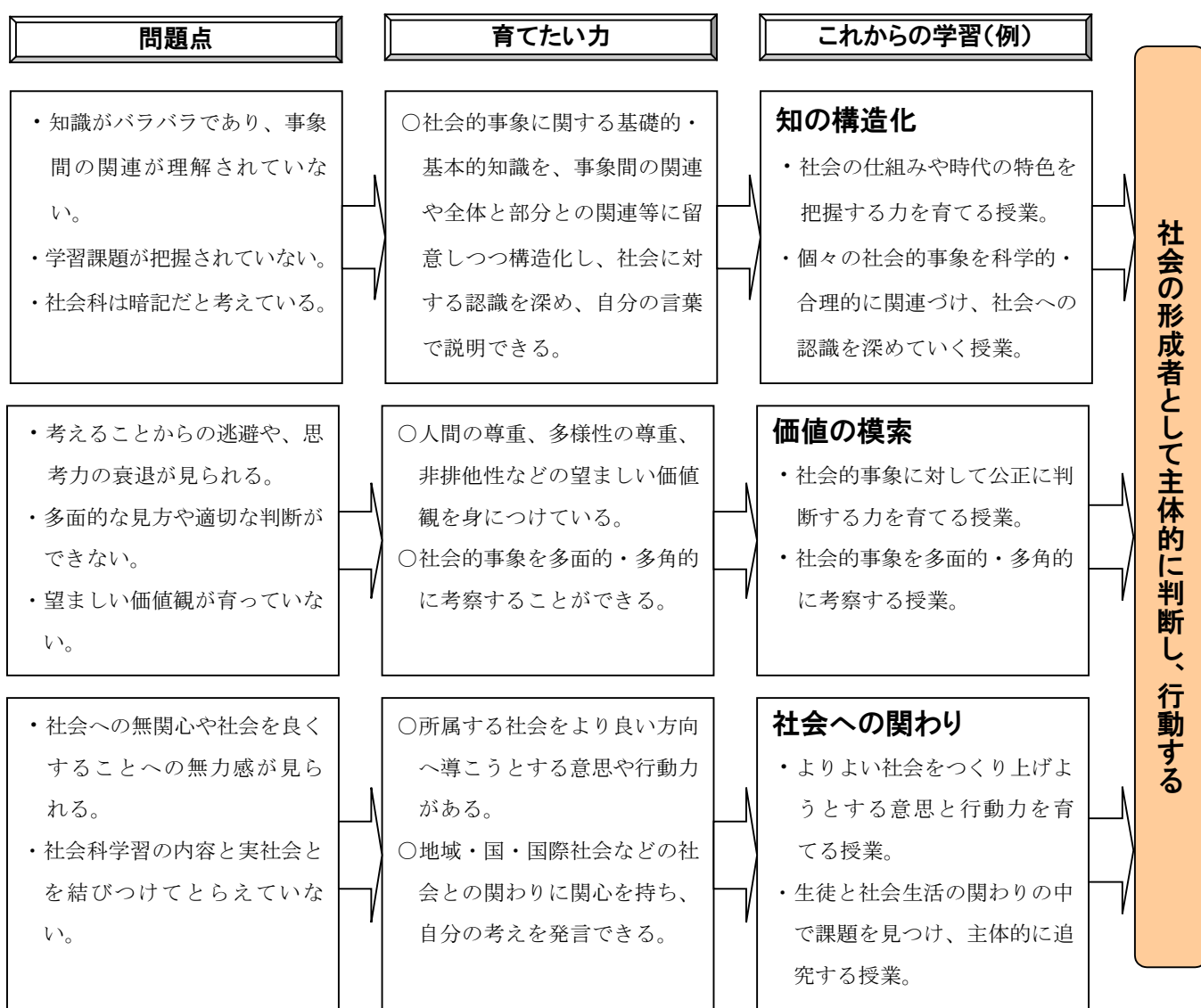


研究の視点

本研究では、単に社会的な存在であるだけでなく、よりよい社会をつくり上げようとする意識をもった存在としての社会の形成者を育てることを目的としている。そのためには、社会的事象を正しく理解し、学習課題を自らのものとしてとらえ、その追究を通して、調べ方や学び方を習得し、社会的なものの方や考え方を身につけ、自ら学び、自ら考え判断する力、すなわち主体的に判断する力を身につけさせることが必要となる。また、実社会の問題に

も発展的に目を向け、これをさまざまな角度から考察し、よりよい社会を築こうとする意思をもち行動する生徒に高めていきたい。これらのことを踏まえて、授業でみられる問題、これを克服するために生徒に身につけさせたい力、そのために必要な学習の形といった角度から、以下のように、日常の授業を見直した。その結果、学習活動の場面に合わせて「知の構造化」「価値の模索」「社会への関わり」の3つの視点から分科会を形成し、相互に関連を図りつつ「社会の形成者として主体的に判断し行動する生徒」の育成を目指すこととした。

研究の構造



【知の構造化】

個々の社会的事象を正しく関連付けて考察し、社会のしくみや時代の特色に対する認識を深める指導のあり方を追究する。

社会科は内容教科であるがゆえに、授業を通して一定の知識をつけることを目標の一つに掲げている。しかしながら、断片的な知識をいくら身につけても、社会の良き形成者として主体的に判断したり行動し

たりすることは難しいであろう。知識は断片的でばらばらなままでは、生きて働く生徒の判断や行動を変容させるまでには至らない。社会科学習を単なる知識の整理で終わらせることなく意義あるものとするためには、中学校での学習で習得した知識を構造化し新たに整理することにより、必然性のある社会的事象としてとらえさせることが必要であると考えられる。そこで社会的事象に関する基礎的・基本的知識を、個々の関連や全体と部分との関連等に留意しつつ構造化したり、因果関係や法則を相対化し、自分の言葉で説明できることにより、社会に対する認識を深め、良き社会の形成者として必要な思考力を高めていきたい。

【価値の模索】

社会的事象を多面的・多角的に考察し判断する力を育成する指導のあり方を追究する。

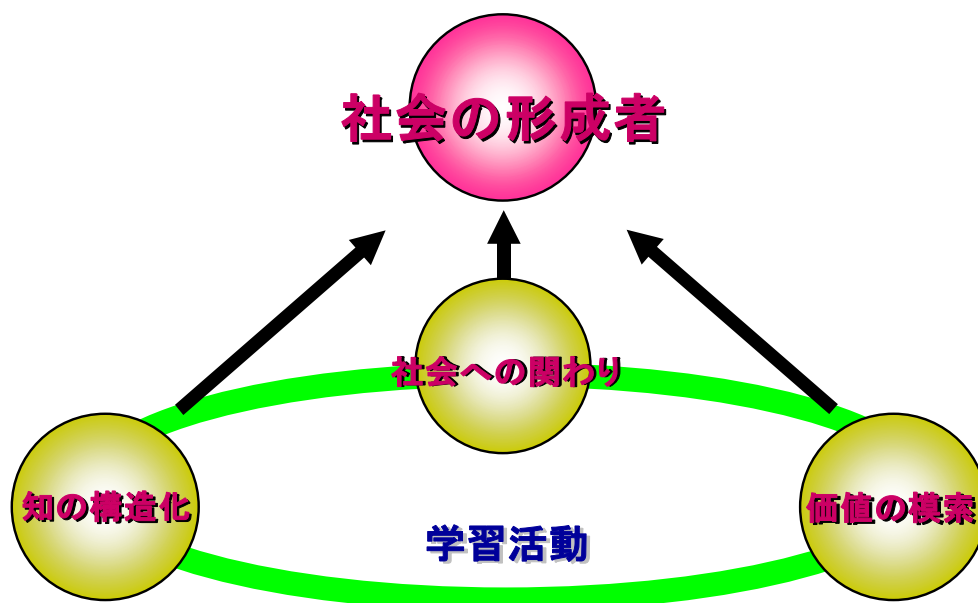
現代社会は複雑かつ混沌としており、政治や経済等日々の社会をにぎわしているニュースも立場が変われば見方も変わり、どれひとつとして簡単に解決のできるものはない。学習課題の解決に際しては、一元的なもの見方や考え方で単純に整理することにとどまらず、取り上げる社会的事象をさまざまな角度から認識し、多面的なもの見方や考え方を身

につけさせていきたい。その過程で、自分と他者の考え方の違いを比較検討させ、望ましい判断のあり方を考えさせ、21世紀を支える世代となる生徒たちに、社会の関わりを築いていく上で必要な社会的事象に対する個々の判断基準を形成させていきたい。

【社会への関わり】

生徒と社会生活の結合を通して、よりよい社会を作り上げようとする意思と行動力を育てる指導のあり方を追究する。

生徒は学習課題の解決を通して、社会的事象に対する認識を深め、多面的にももの見方や考え方を身につけ、自ら学び自ら考え判断する力を身につけていく。これを机上の学習で終わらせることなく、広く課題を社会に求め、地域・国・国際社会などの社会との関わりに関心を持ち、その中で直面する問題をどのように解決するかを考えたり行動したりする学習を展開する。その過程において、自ら行動し地域社会の人々と話し合ったり交渉したりする中で、問題解決能力やコミュニケーション能力、またその土台となる知識を身につけ、自分の考えを発言し、より良い社会を築こうとする意思や行動力のある生徒を育てていきたい。



三つの視点の連関

生徒は社会の中で生活し社会との関わりの中でさまざまな事象と遭遇する。これを個々にばらばらな知識としてとどまらせずに、個々の関連や全体と部分との関連等に留意しつつ構造化し、社会に対する認識を深め、良き社会の形成者として必要な思考力を高めていきたい。また、多面的なものの見方や考え方を身につけさせ、社会的事象に対する公正な判断力を身につけさせたい。そしてまた、社会との関わりに関心を持ち、自分の考えを発言し、より良い社会を築こうとする意思や行動力を身につけさせたい。このように三つの視点は、相互に関連し、総体として「社会の形成者として主体的に判断し行動する」ために必要な力を育てることに関わるものであると考える。

